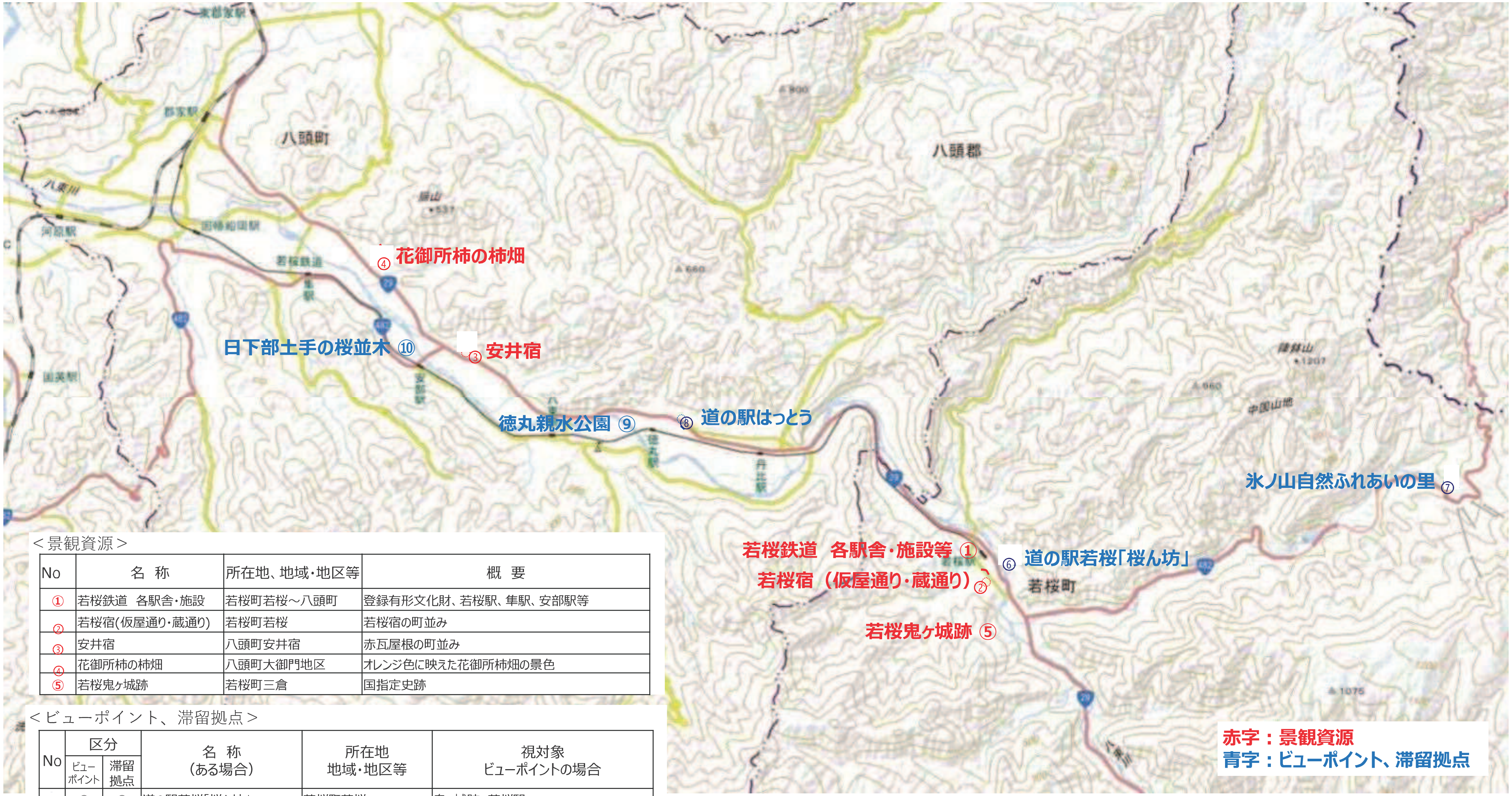
位　置　図



＜景観資源＞

No	名　称	所在地、地域・地区等	概　要
①	若桜鉄道　各駅舎・施設	若桜町若桜～八頭町	登録有形文化財、若桜駅、隼駅、安部駅等
②	若桜宿(仮屋通り・蔵通り)	若桜町若桜	若桜宿の町並み
③	安井宿	八頭町安井宿	赤瓦屋根の町並み
④	花御所柿の柿畑	八頭町大御門地区	オレンジ色に映えた花御所柿畑の景色
⑤	若桜鬼ヶ城跡	若桜町三倉	国指定史跡

＜ビューポイント、滞留拠点＞

No	区分		名　称 （ある場合）	所在地 地域・地区等	視対象 ビューポイントの場合
	ビューポイント	滞留拠点			
⑥	○	○	道の駅若桜「桜ん坊」	若桜町若桜	鬼ヶ城跡、若桜駅
⑦	○	○	氷ノ山自然ふれあいの里	若桜町つく米	棚田、氷ノ山などの山なみ
⑧	○	○	道の駅はっとう	八頭町徳丸	向かいの田園風景、遠見山
⑨	○	○	徳丸親水公園	八頭町徳丸	自然と若鉄車両の風景 徳丸ドンド、若桜鉄道第二八東川橋梁
⑩	○		日下部土手の桜並木	八頭町日下部	八東川沿いの桜並木

①	（区分）　景観資源	（名称）　若桜鉄道　各駅舎・施設	（所在地）　若桜町若桜～八頭町郡家

【 概　要 】
- 昭和５年に旧国鉄若桜線として運営が始まり、昭和 62 年に沿線の若桜町・八頭町等が出資する第３セクター若桜鉄道（株）が運営を引き継ぎ、今日に至る。若桜駅～郡家駅の延長 19.2ｋｍの路線。
- 平成 20 年に全国ではじめて沿線全体の施設（若桜・丹比・八東・安部・隼・因幡船岡の駅舎と橋梁や転車台等）が国の有形文化財に登録され、貴重な地域の歴史的遺産として注目されている。
- 観光列車「昭和号」「八頭号」「若桜号」が走り、木造のレトロな駅舎や沿線の徳丸ドンドと鉄橋などの懐かしい風景を走り抜け、笑顔と笑いが生まれる新しく懐かしい鉄道の旅を演出する。

【 現状・課題 】
　平成 30 年３月の観光列車「昭和号」の運行を契機に、駅舎・施設を含めたトータルデザインとして、同年から令和２年度にかけて各駅舎のレトロ化を進め、歴史のある駅舎などの関連施設は地域資源や観光資源としての価値を高め、町外から人を呼び込むツールとして重要性が増してきている。今後は、３台の観光列車や八東駅行き違い施設整備を活用した列車増便による利便性を活用し、乗って楽しんでいただくだけではなく、降りても楽しめる仕掛けづくりが課題となっている。

若桜駅（若桜町若桜）
　若桜鉄道終着駅。構内には駅本屋をはじめプラットホーム、手動式転車台や給水塔など昭和５年開通当時の設備が良好な状態で残されている。令和元年度に著名な工業デザイナー水戸岡鋭治氏のデザインによる駅舎改修を行い、駅舎内にカフェを設置した。

隼駅（八頭町見槻）
- 駅名にちなんで、スズキの大型バイク「隼」の愛好家等（隼ライダー）の「聖地」となっている。毎年、８月第１日曜日に「隼駅まつり」が開催され、全国各地から 2,000 台余りのバイクが集結する。
- ３月中旬から 12 月上旬にかけて、駅内ショップ「把委駆」（ばいく）が土日祝日に開店する。

安部駅（八頭町日下部）
- 真っ直ぐに伸びる線路の景観が素晴らしく「男はつらいよ」のロケ地になった駅。近隣集落の住民に配慮して入口は２か所に設けられている。
- 昔ながらの木製切符売り場や改札は当時のまま現存している。

【 景観資源の保全・活用策 】（グループで話し合ったアイデアや意見などを付箋に書き出し貼り付けてください。）

【登録有形文化財】

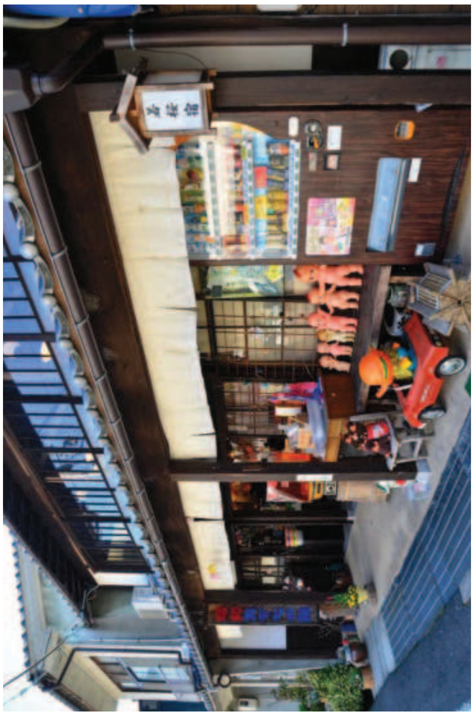
①
③
⑨
⑭
⑬
⑫
㉑
④
⑤
① 第一八東川橋梁
② 因幡船岡駅本屋
及びプラットホーム
③ 隼駅本屋及びプラットホーム
④ 安部駅本屋
⑤ 安部駅プラットホーム
⑥ 八東駅本屋
⑦ 八東駅プラットホーム
⑧ 岩淵川橋梁
⑨ 第二八東川橋梁
⑩ 丹比駅本屋及びプラットホーム
⑪ 細見川橋梁
⑫ 第三八東川橋梁
⑬ 落石覆
⑭ 雪覆
⑮ 若桜川橋梁
⑯ 若桜駅本屋
及びプラットホーム
⑰ 物置及び灯室
⑱ 旧西転轍手箱番所
⑲ 旧東転轍手箱番所
⑳ 諸車庫
㉑ 機関車転車台
㉒ 給水塔
㉓ 流雪溝
八頭町
若桜町
若桜鉄道
河原IC(仮称)
河原城
道の駅
ひがしこおげ
こおげ
やず
こうこう
まえ
かわはら
いなば
ふなおか
船岡
美人温泉
船岡竹林公園
はやぶさ
あべ
物産館
みかど
大樹寺
(ウラクツバキ)
道の駅
はっとう
(フルーツ総合
センター)
はっとう
とくまる
八東りんご
観光園
たんぴ
矢部家
住宅
わかさ
若桜郷土文化の里
若桜ゆはら温泉
ふれあいの湯
蔵通り・カリヤ通り
鬼ヶ城跡
若桜弁財天
(江嶋神社)
くにふさ
たかがり
482
29
安部駅

②	（区分）　景観資源	（名称）　若桜宿（仮屋通り・蔵通り）	（所在地）　若桜町若桜

【 概　要 】
中世、若桜鬼ヶ城の城下町として整備され、江戸時代以降は鳥取と姫路を結ぶ若桜街道と伊勢街道の宿場町・商業都市として発展した。「蔵通り」「仮屋通り」などの特色ある近代以前の建築が現存している。

【 現状・課題 】
・宿内には伝統的な建造物が良好な状態で残されている。しかし、少子高齢化や過疎化に伴い空き家や空き地が増加しており、若桜らしい町並みが失われつつある。
・文化財保護法に基づく重要伝統的建造物群保存地区の国選定に取り組むことが、住環境の整備と安心・安全で賑わいのあるまちづくりにつながると考え、事業の周知と地区の選定に向けた活動を進めている。

【 景観資源の保全・活用策 】（グループで話し合ったアイデアや意見などを付箋に書き出し貼り付けてください。）



ワークショップ「景観資源等の活用策を考える」令和３年４月３０日（金）　　（グループ名　　　　　）

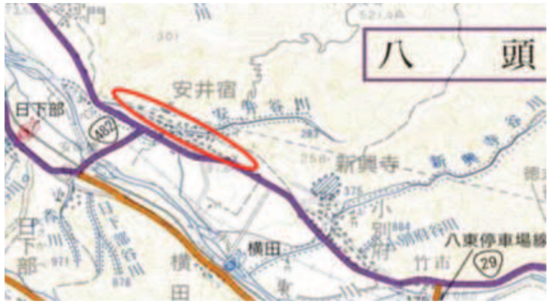
③	（区分）　景観資源	（名称）　安井宿	（所在地）　八頭町安井宿

【 概　要 】
・若桜往来の宿駅に指定された宿場町。
・安井宿内にはかつての若桜往来沿いに赤瓦の家並みが続き、宿の中ほどにはかつての郵便局だった近代建築が残る。さらに進むと愛宕神社の石段下には「右 いせ道／左 やま道」と印された石道標があり、宿場町の風情が残る町並みである。

元郵便局

石道標

【 現状・課題 】
・昔ながらの古民家が残っている一方で、一般的なデザインの家屋も建築されている。
・少子高齢化や、過疎化に伴い、空き家や空き地が増加しているうえ、保全が行き届かないため、景観に悪影響を及ぼしている。



【 景観資源の保全・活用策 】（グループで話し合ったアイデアや意見などを付箋に書き出し貼り付けてください。）

④	（区分）　景観資源	（名称）　花御所柿の柿畑	（所在地）　八頭町大御門地区

【 概　要 】

花御所柿の一大生産地である「大御門地区」を縦断する国道 29 号沿いには、昔から脈々と栽培が受け継がれている花御所柿畑が広がり、晩秋には柿畑が一面にオレンジ色に染まった景色を見ることができる。

【 現状・課題 】

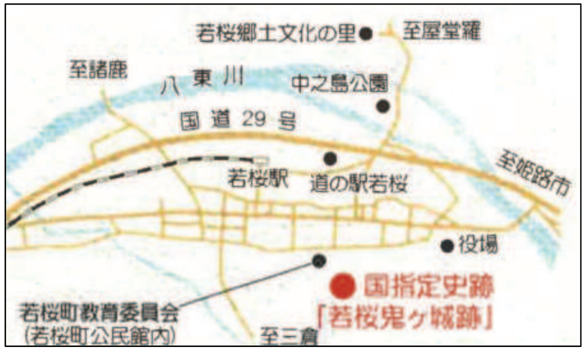
・柿畑にある青色のあるいは老朽化した防風ネットが景観を損なっている。
・鳥取いなば農協の直売所「物産館みかど」前や道の駅はっとう前などに広がる柿畑の風景が、ガードレールや電柱等に阻害されている。
・後継者不足により、田畑や果樹園の耕作放棄地や放置果樹が多くなっている。
・沿線は平坦な地形で展望台もなく柿畑を一望することが出来ない。

【 景観資源の保全・活用策 】（グループで話し合ったアイデアや意見などを付箋に書き出し貼り付けてください。）

⑤	（区分）　景観資源	（名称）　若桜鬼ヶ城跡	（所在地）　若桜町三倉

【 概　要 】

若桜鬼ヶ城は若桜の町を眼下に望む標高 452m の鶴尾山の山頂部から兵陵尾根上に郭郡を配し、本丸、二の丸、三の丸、ホオズキ段、六角石垣など全てが高石垣で築かれていた。元和３年（１６１７年）に一国一城令によって廃城となり、およそ 400 年経った現在に破城の歴史を伝えている。全国的に珍しい造りの虎口があることなどから、平成２０年３月に国史跡に指定された。



【 現状・課題 】

続日本百名城に選ばれており、旅行社のバスツアーが組まれるなど、近年来城客が増加傾向にある。ガイド付き散策や御城印も人気。

【 景観資源の保全・活用策 】（グループで話し合ったアイデアや意見などを付箋に書き出し貼り付けてください。）